



執行役員

田母神 観一郎

Kanichirou Tamokami

---

## ～第7次中期経営計画達成に向けて～ 「世界のトップブランド」の構築

---

新たな夢の実現に向けて2013年4月から第7次中期経営計画がスタートしました。

目的は、企業理念の実現のために山洋電気グループ全体が、どのような環境の変化にも左右されない、安定的な利益を確保できることを基本に、グローバル企業を目指し「世界のトップブランド」を構築するものです。そして、世界中の拠点が営業、サービス、生産、調達だけでなく、さらには設計開発、生産技術、品質管理の機能を充実させて、世界中のお客さまをサポートしていくことが部門共通の目標になっています。

第7次中期経営計画では「業界No.1のブランド」から「世界のトップブランド」にステージが変わり、全ての部門でグローバルな展開が求められています。

ここで、設計部門における第6次中期経営計画の足跡を振り返ってみますと、新製品開発に「4つのSHINKA」進化・深化・伸化・新化を掲げ、開発テーマを策定して取り組みを通して市場とお客さまが真に望んでいる製品を提供してきました。それらは未来への夢に繋がるものであり、一步先の時代を導くものばかりです。

さらに、2011年5月には設計部門での業務効率および品質向上を目的として「技術情報管理システム」の更改がおこなわれ、技術情報の一元管理が促進されるようになりました。3DCADの本格稼動に合わせて「フロントローディング手法」での開発体制の改革が推進され、国内外の生産部門、営業部門とも技術情報を共有できるようになり、設計・開発から生産、販売までの一連の活動のスピードアップが格段に進んできています。

今後は「4つのSHINKA」と開発体制の改革を武器に、設計、技術のグローバルな展開を推進することが、設計部門のテーマになると考えます。

また、私ども管理部門の第7次中期経営計画においても、グローバルな展開を施策の中心として、グループ全体としての管理部門の機能の定着と向上を目指します。

---

---

達成に向けて、設計部門のグローバル化と同様に、世界中の拠点に向けて、あらゆる施策を推進します。会社経営の心臓部にあたる総務、人事、情報、広報、法務、経理の管理機能が各拠点で十分に発揮できれば、各拠点でのビジネスチャンスがさらに拡大し、拠点間での競争が高まり「世界のトップブランド」を実現するための原動力になるでしょう。

最後になりますが、112期では第7次中期経営計画のスタートに合わせるかのように、私たちの職場環境が大きく変わります。

1つには、富士山工場F2棟の竣工式が4月24日に行われ、5月から新工場の操業を開始します。鉄骨3階建て延べ床面積9,960平方メートルの建物です。屋根には出力150kWの太陽光発電パネルを設け、自社製パワーコンディショナとグリッド管理装置を活用し、発電分は自社利用する環境に配慮した工場です。

1階は山洋電気フィリピン製品の物流拠点として利用されます。3階はサーボアンプおよびステッピングドライバ製品のプリント配線の製作、製品の組立・検査工程の一貫生産ラインとして生産を開始し、従来に比べ生産能力を3割ほど引き上げる見込みです。

2つ目として、パワーコンディショナの増産体制と生産体制の集中化を目的として、山洋電気フィリピンの第3工場棟新築工事を2013年4月から着工し、2014年4月に完成させる予定です。

3つ目として、2013年8月下旬に本社オフィスをJR大塚駅南口ビルに移転させる予定です。本社機能・営業体制および情報通信体制の充実を図ります。

これらのインフラの整備により、職場環境が整い、安定した事業活動が永きにわたり継続できることが今まで以上に期待できます。

山洋電気グループの次の世代を担う新たなビジネスを創造するための出発点として、グループ全社員の力を結集して「世界のトップブランド」を目指して取り組んでいきます。